声なき感染症を知る ◆34◆

子どもの予防接種

県感染症情報センター

をします。

特に、公費負担（自己負担なし）による麻疹（ましん）・風疹混合ワクチンの2回目接種は、小学校就学前の1年間です。対象となる子どもさんが未接種の場合には、この機会にぜひ、予防接種を受けるようにしてください。

定期接種の充実進む

任意接種も積極的に

▽子ども予防接種週間

3月1～7日の1週間は、日本医師会、日本小児科医会、厚生労働省が主催する「子ども予防接種週間」です。

実施内容は「ワクチンで防ぐことができる病気（VPD：Vaccine Preventable Diseases）から子どもたちを救うため、種々の予防接種に関し、地域の実情に合った広報・啓発の取り組みについて、各都道府県医師会等で企画・実施する」（日本医師会ホームページから）とされています。

この時期は、4月からの入園・入学に備え、接種もれを見直すよい時期と考えられ、奈良県では、協力医療機関等において、土曜日、日曜日、平日の夜間に予防接種を行うとともに、種々の予防接種の相談に応じる取り組みが残る病気を防ぐことで、社会的損失を防ぐことです。保護者等にとっては、対象者に予防接種を受けさせる努力義務があります。

対してB類疾病は、高齢者が対象で、個人の予防が主な目的であり、接種の努力義務はありません。一部自己負担を必要とすることが一般的です。

定期接種は接種時期（対象年齢）や接種間隔が決められており、それ以外で受けると任意接種になります。

詳しくは、お住まいの市町村にお問い合わせください。

▽ワクチンギャップの解消に向けて

数年前まで、世界保健機関（WHO）が推奨しているワクチンの一部が、我が国の予防接種法の対象となっておらず、他の先進諸国と比べて公的に接種するワクチンの数が少ない状態でした。「ワクチンギャップ」と呼ばれる状態です。これを解消するため、平成24年5月23日に厚生科学審議会感染症分科会予防接種部会において取りまとめられた「予防接種制度の見直しについて（第2次提言）」の中で、広く接種を促進することが望ましい7ワクチン（子宮頸（けい）がん、ヒブ、小児用肺炎球菌、水痘（すいとう）、おたふくかぜ、成人用肺炎球菌、B型肝炎）が示されれ、現在ではおたふくかぜ以外の予防接種が定期接種となっています。

しかし、WHOが推奨するロタウイルスのワクチンは、定期接種の対象になっていません。また、おたふくかぜの予防接種は、定期接種化が遅れているため接種率が上がらず、昨年には全国的に流行し、性耳下腺（じかせんせん）炎（おたふくかぜ）が流行しました。

▽予防接種の重要性

VPDには、命に関わるものや、重い後遺症が残るものがあります。ワクチンの副作用（「副反応」とも呼ぶ）を心配する方がおられますが、VPDによる健康被害の発生に比べると、ずっと確率が低いことが知られています。

VPDは、原因となっている病原体に有効な治療薬がないものや、病気に気付いた時にはすでに重症化しているものが多いため、予防接種によって防ぐことが非常に重要です。かかりつけの小児科医とよく相談して、予防接種を積極的に受けましょう。

（県感染症情報センター）

＝第2木曜日掲載＝

■日本で接種可能なワクチンの種類（2016年10月1日現在）

【定期接種】 （対象年齢は政令で規定）	生ワクチン □BCG □麻疹・風疹混合（MR） □麻疹（はしか） □風疹 □水痘 不活化ワクチン・トキソイド □百日咳・ジフテリア・破傷風・不活化ポリオ混合（DPT－IPV） □ポリオ（IPV） □ジフテリア・破傷風混合トキソイド（DT） □日本脳炎 □肺炎球菌（13価結合型） □インフルエンザ菌b型（Hib） □B型肝炎 □ヒトパピローマウイルス（HPV）：2価、4価 □インフルエンザ* □肺炎球菌（23価多糖体）* ＊高齢者対象（B類疾病）
【任意接種】	生ワクチン □流行性耳下腺炎（おたふくかぜ） □ロタウイルス：1価、5価 □黄熱 不活化ワクチン・トキソイド □破傷風トキソイド □成人用ジフテリアトキソイド □A型肝炎 □狂犬病 □髄膜炎菌：4価 ※ 定期接種を対象年齢以外で受ける場合

国立感染症研究所感染症疫学センターより（一部補足）